



高山 真一 先生

略歴

- 1990年 大阪大学歯学部卒業
- 1990年～ 大阪大学大学院歯学研究科口腔治療学教室在籍
- 1999年 大阪大学大学院歯学研究科助教
- 2002年 高山歯科医院開設
- 2018年～ 大阪大学大学院歯学研究科臨床准教授

日本歯周病学会専門医・指導医，大阪大学歯学博士

リグロス[®]を通して見える歯周組織再生療法の奥ゆかしさ ～リグロス[®]の効果を最大限に引き出すために～

滋賀県大津市 高山歯科医院
高山 真一

2016年冬から歯科臨床に登場した組換え型ヒトFGF-2（塩基性線維芽細胞成長因子：bFGF）を有効成分とする世界初の歯周組織再生医薬品リグロス[®]。おおよそ4年間にわたって多くの先生方が使用され，これまで数多くの臨床例が報告されてきました。すばらしい臨床家の先生たちが報告されたこれらの症例を目の当たりにしたときの驚きは，最初に行ったビーグル犬での動物実験で術後リエントリーを行ったときの新生骨の形成に目を丸くした当時の感動とまったく同じものです。

しかしながら，同じように歯周外科処置を行いリグロス[®]を用いてもその結果はさまざまであり，予知性，確実性が高くないことは歯周組織再生療法の課題だとも言えます。これまで私一個人が行える臨床例は少ないながら，どのような点に着目してリグロス[®]の予知性を感じているか，またどのような点に注意を払って施術しているかを中心に今回のセミナーではお話しさせていただこうと思っております。

Dr.Nymanらによって最初に開発されたGTR法（guided tissue regeneration）が登場したのが1982年，まもなく歯周組織再生療法が登場して40年が経とうとしています。まだまだ，不思議なことが多く残っている歯周組織再生療法の世界。まだ解明されていない事象が残されているからこそ，今後の発展も期待されます。歯周組織再生療法は科学の力を借りて今後もグレードアップされていくと想像します。

現時点では，まだ課題が残されている再生療法ですが，そのような欠点を有していることが最近私には奥ゆかしく感じられています。この課題が残されている部分であるすき間を埋めるためには，まさに患者さまとわれわれ医療従事者との関わり合いが必要であり，そのような部分が非科学的ではありますが，本当の医療を行っている部分なのかと実感しています。今回限られた時間の中ではありますが，視聴されている皆さまと歯周組織再生療法の奥ゆかしさを共有したいと思っております。本セミナーが，多くの歯科臨床家と研究者の協力を通してこの再生療法の分野が今後も益々進展してゆく契機になれば幸いです。